

令和4年度 小・中学校教育課程研究協議会に係る各部会の改善の重点

部会名

小学校 家庭科

改善の重点

- ① 題材において働かせる「見方・考え方」及び育成する「資質・能力」を具体化した2学年間を見通した題材指導計画ならびに評価計画を作成すること。
- ② 家庭科の指導のねらいを達成するため、1人1台端末を効果的に活用する場面を設定した授業づくりや指導の工夫をすること。

1 設定理由

小学校学習指導要領第2章第8節家庭の第3「指導計画の作成と内容の取扱い」には、「生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、知識を生活体験等と関連付けてより深く理解するとともに、日常生活の中から問題を見いだして様々な解決方法を考え、他者と意見交流し、実践を評価・改善して、新たな課題を見いだす過程を重視した学習の充実を図ること。」とある。家庭科における資質・能力の育成に向けて題材ごとに見方・考え方を示し、題材を通して育むべき資質・能力を具体化して明記することが必要である。加えて、題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすという指導と評価の一体化の視点から授業改善を進めることも求められている。

GIGA スクール構想により、1人1台端末が整備された。家庭科における主体的・対話的で深い学びの実現には、コンピュータや情報通信ネットワークの活用が重要な役割を果たすことを踏まえ、1人1台端末の積極的な活用が重要である。そのために「1人1台端末を活用する場面設定」等の研究を進める中で、「1人1台端末を効果的に活用した主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」に取り組む必要がある。

2 研究を進めるに当たって

(1) 研究を進めるに当たっては、以下の点に留意すること。

- ① 「改善の重点①」については、どのような見方・考え方を働かせ、どのような資質・能力を育成するのかを題材ごとに具体化し、題材指導計画に明記すること。また、評価計画については、内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫し、作成すること。
- ② 「改善の重点②」については、1人1台端末の効果的な活用の研究を進める中で、題材のまとまりの中で1人1台端末を効果的に活用する場面を設定した授業づくりや指導の工夫に取り組むこと。

(2) 参考とすべき資料

- ① 小学校学習指導要領解説家庭編（文部科学省 平成29年7月）
- ② 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校家庭（文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター 令和2年3月）
- ③ 各教科等の学習過程を踏まえた ICT 活用ハンドブック（大分県教育委員会 HP <https://www.pref.oita.jp/uploaded/attachment/2093657.pdf>）
- ④ 教育課程説明資料等について（小学校家庭科）（大分県教育委員会 HP <https://www.pref.oita.jp/site/kyoiku/new-csh29-h30.html>）
- ⑤ 早わかり！単元計画作成手順～資質・能力の確実な育成のために～（大分県教育委員会 HP <https://www.pref.oita.jp/site/gakkokyoku/hayawakari-tejyunn.html>）